

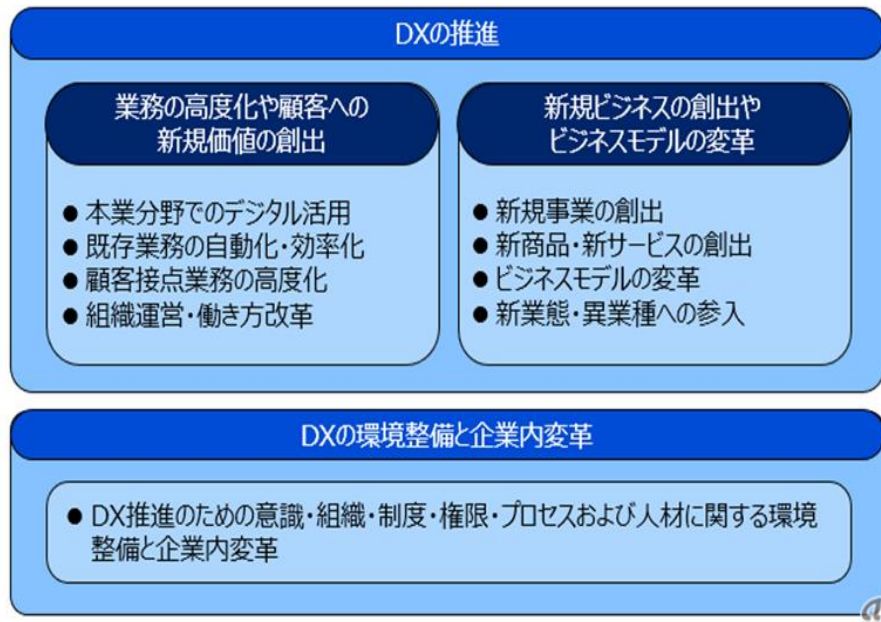
デジタルトランスフォーメーション

(Digital Transformation : DX)

概念

「ITの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」

2004年スウェーデン・ウメオ大学 エリック・ストルターマン教授

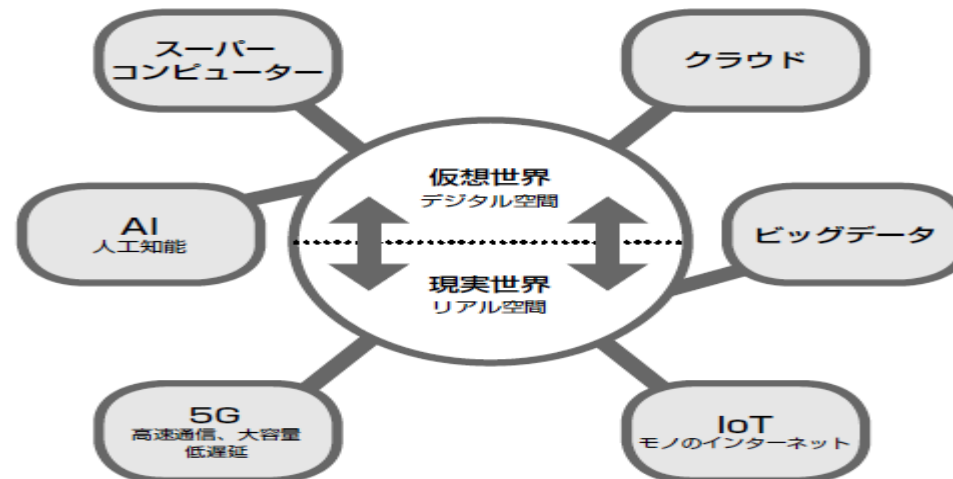


英語圏では接頭辞「Trans」を省略する際にXと表記することが多いため、「Transformation」が「X」に代わり、「Digital Transformation」⇒「DX」と表記している。

データやデジタル技術の活用を軸に、

- 従来なかった製品・サービス、ビジネスモデルを生み出す
- プロセスを再構築し、既存ビジネスに生産性の向上・コスト削減・時間短縮をもたらす
- 業務そのものを見直し、働き方に変革をもたらす
- 上記を実現する土壌として**企業の在り方自体を見直す**

デジタルトランスフォーメーションとIT技術



図：デジタルトランスフォーメーション (DX) の全体像 (出典：ITR)

経済産業省の「DX 推進指標」を元にDXを考える

<DXの定義>

「企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、**データとデジタル技術**を活用して、顧客や社会のニーズを基に、**製品やサービス、ビジネスモデルを変革**するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、**企業文化・風土を変革**し、競争上の**優位性を確立**すること」

<行動>

- 事業部門、DX部門、IT部門など関係する者が現状や課題に対する**認識を共有**し、アクションにつなげていくことが不可欠である。
- 変化に**迅速に対応**できるデリバリースピードを実現する。
- データを、部門を超えて**全社最適で活用**する。

<起こりうる問題と課題>

- どんな価値を創出するかではなく(**What**)、「AIを使って何かできないか」といった(**How**)発想になりがちである
- 号令はかかるが、DXを実現するための経営としての仕組みの構築が伴っていない
- ITシステムが、技術面の老朽化、システムの肥大化・複雑化、**ブラックボックス化**等「レガシーシステム」となりDXの足かせとなっている
- **過剰なカスタマイズ**は、メンテナンスやバージョンアップ時のコスト増に繋がる

経済産業省の「DX 推進指標」を元にDXを考える

<ITシステムに求められる主要要素>

1. データを**リアルタイム**等使いたい形で使えるか
2. 変化に**迅速に対応**できるデリバリースピードを実現できるか
3. データを、部門を超えて**全社最適**で活用できるか

部門ごとに**個別最適**でシステムを構築した結果、**過剰なカスタマイズ**により、ITシステムが**ブラックボックス化**してしまっている。この問題を起こしてはいけない。

1. 全社最適でデータを使えず、変化へのスピーディーな対応もできず、DXを実現できず、デジタル競争の敗者になる。
2. 維持管理費が高額化し、IT予算の9割以上となり(技術的負債の肥大化)、価値創出につながる投資に資金・人材を振り向けられない。
3. 保守運用の担い手がいなくなり、トラブルやデータ滅失等のリスク大。

→ 「2025年の崖」問題

※**目先の便利の罠**に陥らない事が重要である。**総合的先見的なDX**の確立が必要。

経済産業省の「DX 推進指標」を元にDXを考える

<人材育成と確保>

1. システム刷新をビジネス変革につなげて**経営改革を牽引できる**人材育成
2. 業務内容にも精通しITで何ができるかを理解し、経営改革を**ITシステムに落とし込んで実現できる**人材
3. 各部門においてビジネス変革で**求める要件を明確にできる**人材育成
4. ビジネス変革で求められる要件をもとに**設計、開発できる**人材育成
5. ITやAIの活用等ができる人材、**データサイエンティスト**

<人材の融合>

「技術で何ができるかを分っている人」  「業務を分かってアイデアを出せる人」

連携できる仕組み・組織の構築が不可欠

参考DXとは？

大興電子通信株式会社

福島コンピューターシステム
株式会社

【参考動画リンク】

AI/IoTへの取組み

https://www.daikodenshi.jp/solution/ai_iot/

DXって何？
どう取り組めばいいの？

<https://youtu.be/i6a6KaiWibM>